

2011 年 11 月 6 日の調査状況

1. 概要

6 日は、引続き 2 班がバンコク東部，バンコク西部の水防活動について，そしてもう 1 班がボートで Pathumthani 県の被災状況について調査を行った。

※バンコク東部については，第 4 報報告書において詳細に報告を行うので，ここではバンコク西部の水防活動について， Pathumthani 県の被災状況

2. 調査結果

【バンコク西部】

調査エリア Area	バンコク西部，チャオプラヤ川右岸	
調査目的 Purpose	チャオプラヤ川右岸の浸水状況の把握・ヒアリング調査によるポンプの稼働状況とポンプの配置、水路、情報伝達網の把握	
地図 Map	Attached	
Report	<p>① チャオプラヤ川左岸側水門とポンプ。この地域は左岸側は浸水しておらず右岸側は浸水している。</p>	 
	<p>② チャオプラヤ川右岸側、Wat Arun Temple 付近、Queen's Pier 前の水門、ポンプ。共にバンコク都の管轄である。職員のインタビューを行ったところ、排水量 1 機 3t/s×18 機で計 54t/s の排水能力を持つが、</p>	

この時は 14 機稼働しており、電力の問題から 15 機以上は同時に稼働できないとの話。しかし、故障時の備えのためと言う情報もあり、どちらが理由かは今後調査が必要。チャオプラヤ川の水位が 1.2m を超えると水門を閉じ、水路内の水位が 0.8m を超えるとポンプを動かし始める。

調査時はゴミの処理でかなり忙しい様子であった。このゴミ処理の理由は主にゴミによってポンプの排水能力が落ちるのを防ぐためである。



- ③ チャオプラヤ川右岸側、Wat Arun Temple 付近の水門及びポンプ。バンコク都の管轄で 26 年前に建設された。職員にインタビューを行ったところ、排水量は 1 機 1.3t/s×8 機で計 10.4t/s。現在は全 8 機が 24 時間フル稼働していた。径年のため故障の可能性がある、1 機は取り換えられる予定だという。昨年の雨季は、8 機中 5 機が稼働していた。
- 操作基準については、乾季は灌漑のために水路内の水位を 1.8m に保ち、雨季は水位を 1.3m 以下に保つように操作されている。調査時の水位はチャオプラヤ川が 1.9m、水路側が 1.25m。

1 番の問題はゴミの処理といい、トラックが 1 日 2 台必要



	<p>なほどのゴミが出るということである。</p> <p>また、水門には 40cm の嵩上げが実施されていた。今年 5 月に多雨の予報が出ており、それに応じて 6 月に嵩上げを行ったとのこと。</p>	
	<p>④ 水路の分岐点。幹線水路から分岐する小水路は南向きに、幹線水路自体はチャオプラヤ川方面(東向き)に流れていた。</p>	 
	<p>⑤ 水門、ポンプ群、モンキーチークを視察。多数の水門、ポンプが分散して存在。モンキーチークプロジェクトによって建設されたと看板に記載されていた。一番大きな水門、ポンプ付近の事務所で職員にインタビューを行った。元々そこには 12 機のポンプがあったが、現在はその内 4 機を⑦の地点の水門とポンプ場に貸し出しており、現在 8 機しかない。</p> <p>その内 6 機を稼働し、最悪の事態に備えて水路の水位を下げている。しかし、上流側とこの</p>	 

	<p>ポンプをつなぐ役割をもつ南北方向の水路の流下能力が低く、有効利用できていないとのこと。</p>	
--	--	--

【Pathumthani 県】

調査エリア Area	Rangsit 運河, Rangsit 市街地, ナワナコン工業団地	
調査目的 Purpose	Rangsit 運河の水門状況の把握, Rangsit 市街地及びナワナコン工業団地の被災状況の把握	
Report	<p>① Rangsit 運河のバンコク側の嵩上げ状況と Pathumthani 県側の浸水状況</p> <p>バンコク都と Pathumthani 県の境界付近を流れる Rangsit 運河をボートで移動した。Rangsit 運河のバンコク側の堤防は土嚢で嵩上げが実施されているが、対岸の Pathumthani 県側には土嚢などの水防活動の状況は確認できなかった。</p>	 

② Rangsit 運河と Parapa 運河の交差点

Parapa 運河はバンコク都の上水を配給する水路である。この水路はサイフォンで Rangsit 運河の下をくぐりバンコク都側へ流れているが、この交差点には今回の増水に備えて堤防の緊急嵩上げが実施されている。同行した RID スタッフは、洪水流が Parapa 運河に流れ込むのを防ぐためだと話す。



③ Rangsit 運河と交差する Prem 運河の水門 (Pathumthani 県側)

Prem 運河の水門を閉塞し、水門脇からポンプで Rangsit 運河へと排水を試みたと見られる。しかし、水門の脇からは既に Pathumthani 県側 (チャオプラヤ川上流)からの氾濫流が流れ込んでおり、計画通りの排水は行われていないと見られる。



④ Rangsit 市街地の被災状況

(写真上) 写真奥が Rangsit 市街地であるが、市内の水を大型ポンプで Rangsit 運河 (手前)へと排水を行っている。

(写真中) Rangsit 市街地は 1m~2m の浸水となっており、衛生状態は極めて悪い。市民は、建物の一階部分での



生活は不可能なため、2階部分を利用して生活しているようだ。移動は簡易ボートを使用している。

(写真下) この高架橋が外部からこの市街への唯一のアクセス道路となっている。そこへは多くの車が停車し、緊急の港のようなものを形成している。今回のような大規模な水害において高架橋の果たす役割は注視すべき事例である。



⑤ Phahon Yothin(主要道路)の浸水状況

Phahon Yothin はギリギリ車が通行可能な程度まで水が引いていたが、道路の両岸は何れも1m以上浸水している。

道路沿いにはアジア工科大学、タマサート大学など著名な施設もあるが、それらも浸水している。



⑥ ナワナコン工業団地の浸水状況

(写真上) ナコンサワン工業団地へ向かう途中の住宅、商店街は何れも1階部分が完全に水没。そして周辺には汚水のおいが充満しており、環境は劣悪である。

(写真中・下) ナコンサワン工業団地には多くの日系企業工業が位置する。本工業団地は洪水に備え独自の輪中堤を有しているが、団地内部を見る限り堤防としての機能を発揮出来なかったことが分かる。

工場ごとでも周辺の塀にビニールをかぶせるなど独自の水防活動の様子が確認されたが、何れの工場も1階部分が冠水している。



以上.